# 雑　　感

（第５８回青森県 PTA 研究大会中弘南黒平大会）

前日の風雪模様の心配された天候から一夜明けた大会当日 11 月８日は、曇り空の隙間から青空も見え、大会日和とまではいかなかったが、晩秋の 11 月にしては穏やか中での開催となった。４つの分科会で構成された午前の部と表彰式、記念講演で構成された午後の部だったが約５００人の参加者を迎え、分科会での活発な意見交換、大会に華を添える千葉勝弘社中（津軽民謡、手踊り）のアトラクション、原田監督の記念講演等、大いに心に残る大会となった。

弘前市立石川小中学校を会場に行われた〈協働教育〉部門の第２分科会は、「対話を通して Re：学びみんなの幸せ実践創り」をテーマに古内しんご氏を講師に迎え自身も小学校教員という立場から主に教師の働き方改革をメインに全国の学校での現状を紹介しながら、わかりやすく話された。その後行われたパネルディスカッションでもパネラー自身が所属する学校の働き方改革の取組状況などが出され、学校と PTA との対話の大切さが大きく取り上げられた。

平川市図書交流施設よみまるで行われた〈健全育成〉部門の第３分科会は「負担を希望に変える組織づくり」をテーマに弘前大学の越村准教授による講話から始まり、その後パネラーの今まで取り組んできた実践が話され、「PTA 活動はできる人ができる時にできる範囲で」を再認識し今後に生かしていくことが共通理解された。

黒石スポカルインで行われた〈家庭教育〉部門の分科会は、秋田大学の皆川雅仁氏がコミュティスクールと PTA とのかかわりから協働という活動が大事で〈part time assist〉という考えで PTA 活動に取組むことの重要性を話された。

同会場、〈人権教育〉部門の不登校分科会はコーディネーター、パネリストの皆さんからそれぞれの立場での実体験のもとに話し合いが進められ、助言者の弘前大学大学院 菊地一文氏から適切なアドバイスをいただき、「不登校」＝「不安」ではなく子どもも親も「大丈夫」という気持ちになれることが大事である。そのことを会場みんなで確認した分科会だった。

午後の全体会は表彰式に続き、記念講演として聖愛高校野球部監督 原田一範 氏が登壇し、【新教育論】「かち（価値＋勝ち）の見出し方」という演題で話された。原田氏は、自分の今までの様々な経験や体験を通し聖愛高校の野球部監督になってからは、選手人一人

とのコミュニケーションを繰り返しながら、野球の技術は勿論だが一人の人間としての成長が試合の中でも発揮され試合結果につながっていると、それは普段からの言葉がけにあり、様々な不安要素を持ち合わせた選手に「できる、できる」と可能性を示唆し、選手自身にも「できる、できる」と暗示しながら言い聞かせることが大事であり、自己肯定感を高めることとなる。それが子どもたちの持っている無限の可能性を引き出す要素となり得ると話された。

成程と思いながら、日常生活の中でいろいろな方への「言葉がけ」の大切さを改めて感じた次第である。

講演後の閉会行事は次年度開催八戸大会の概要説明ということで十数人の八戸市連Ｐの皆さんが横幕と幟を持って登壇された。「来年は是非八戸へ！」という思いを込め、「みんな大好き青森県」のポーズをもじって「八」という字を意識したポーズで会場の皆さんと一緒になり「はちのへ」と声出し、場の雰囲気を盛り上げ、最後を締めてくださった。

中弘南黒平大会実行委員会の皆様、本当にお疲れ様でした。いい大会をありがとうございます。

（事務局長　記）